



2009年2月16日

山梨県教育委員会教育長 廣瀬孝嘉 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 伊平則夫
同 保存問題委員会 委員長 和田昇三
同 山梨地域会 代表 廣瀬孝嘉

山梨県庁舎第一南別館（旧山梨県立図書館）保存活用に関する要望書

貴職におかれましては、日頃から当協会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在の山梨県庁舎南第一別館は、既にご存知の通り、根津嘉一郎氏の寄付により社団法人山梨県教育会所有の山梨県最初の近代図書館として1930年に建てられたものです。1931年に教育会より山梨県に寄贈され、1970年に丸の内2丁目に現在の図書館が出来るまで使用され、長年本県における生涯学習の拠点としての役割を果たしてきました。

竣工時に発刊された記念誌によりますと建築様式は「自由近世式」と謳われていますが、当時の前衛芸術であるアール・デコ様式を取り入れた先進的なデザインです。曲線と直線を幾何学的に組み合わせて建物の機能性と象徴性を両立させている点、また規則正しく配置された縦長窓や丸窓などの意匠に同時代の建築の特徴が良く残されています。

「山梨県庁舎の耐震化等整備に関する報告書（2008年）」にもあるように、現在甲府駅北口に移築中の藤村式建築の旧陸沢学校と同様に、山梨県の建築史を物語る上で貴重な建築であると言えるでしょう。こうした歴史的建築物が甲府市中心部において近接して存在することの意義は大きいと考えます。

さて、県庁建築群の内、県庁本館（1963年）は既に耐震補強がなされています。また上記報告書及び「県庁舎耐震化等整備方針（2008年）」によれば、同時期に建設された議事堂（1928年）・別館（1930年）は文化財的価値を認め耐震補強・改修を施したうえで活用するとあります。第一南別館につきましても「保存に値する文化財的価値を持つ建築物である」が、扱いは未定との報告でした。しかしながら、2009年2月12日には「記録保存した上で解体撤去する」との新聞報道がなされ、大変驚いております。

明治の経済人は公益性を重視した事業を起こし、得た利益で寄付を行い、後世の人々に役立つ事業に再投資したといわれています。根津嘉一郎氏もその一人として東武鉄道を発展させ、根津美術館・武蔵大学などを創設し、図書館を郷土に残しました。

2008年10月11日、山梨市において根津嘉一郎氏の生家が一般公開されましたが、大変盛況であり、入館者も当初予定を大幅に上回っているとの報道も目にしております。第一南別館もそうした先人の業績や社会奉仕の精神を示すものでもあり、山梨における貴重な歴史の証として、ぜひとも後世に伝えて欲しいと希望するものです。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、及び同保存問題委員会、同山梨地域会は、第一南別館の保存活用にできる限りの協力をさせていただくことを申し添えます。

敬具